

第4回よっちゃんばれ放談会 要旨

日 時	平成28年2月21日(日) 午前10時00分～正午
会 場	甲府市役所 7階 7-2会議室
参 加 者	公募 (8名) 子育てに関わる団体などからの参加希望者(3名)
市出席者	市長、子ども家庭支援室長、障がい福祉課長、児童保育課長、児童育成課長、学校教育課長、学事課長、生涯学習文化課長、市民対話課長
次 第	1 開会 2 市長あいさつ 3 意見交換 4 まとめ 5 閉会
意見交換	
子ども家庭支援室長	<p>それでは、意見交換会に入りたいと思います。 最初に参加者Aさんからご意見をいただいてよろしいでしょうか。</p>
参加者A	<p>私は平成16年から「放課後子供教室」を、地域住民とともに、羽黒小学校の空き教室をお借りして、午後3時から6時まで実施しております。 私からは、3つのことをお話したいと思っております。 1点目は、ボランティアは育成会や子どもクラブ、民生児童委員など地域にいる皆さんで構成されていて、多様な地域住民が関わってくれることにより効果が大きいいため、地域の子どもは地域で育てるという意識を啓発したい。 2点目は、空き教室の活用許可をいただいたことやボランティアなのに有償になったことなど、行政の理解とご支援によりボランティアさんの士気が上がるし、児童が日々変わっていく姿に、生きがいを感じている高齢者も多く、教育行政と福祉行政の融合が大切であると考えています。 3点目は、午前中の「放課後子供教室」の空いている時間を、コミュニティカフェに使用したいと思っております。</p>
市長	<p>地域ぐるみで子ども達を育てる体制というのは、本市にとってみれば、首都圏、都市部にはない強みだと思いますから、この良い部分を更に社会全体で子ども達を育てるということを進めていきたいと思っておりますし、行政も手助けしていきたいと思っております。 放課後子供教室は、全体で9教室ありますが、地域の実情を調査しながら、また要望をお聞きしながら拡充をしていきたいと思っておりますし、放課後</p>

<p>子ども家庭 支援室長</p>	<p>児童クラブと一体的な整備を計画的に進めていきたいと思っております。</p> <p>高齢者の皆さんにとってもお子さん達との関わりは非常に大切だとの話 がございましたけれども、とりわけ昔と今の子ども達では、遊ぶ環境や遊 び方が変わってきておりますから、親や祖父母が遊んできたこと、あるい は育ってきた環境を共有することで、お互いがお互いを尊重し合うことが 更に進めば良いと思っております。</p> <p>放課後子供教室の使用にあたっては、全てに安全・安心を提供してい かなければなりませんから、行政として責任ある対応をするということと、 地域のご事情などをしっかりと検討してまいりたいと思います。</p>
<p>参加者B</p>	<p>次に、参加者Bさんご意見をいただいてよろしいでしょうか。</p> <p>私は、学校給食の重要性とあり方について意見を述べさせていただき たいと思います。</p> <p>昨年11月に長野県の旧真田町教育長を務められた大塚貢さんのお話を 聞く機会がありました。かつて大規模中学校で校長を務められていた時に、 非行少年の食事を見ると、ほとんどがコンビニエンスストアの弁当だった。 それでしっかりとした食事を摂らせたいと給食改革に乗り出したそう です。具体的には給食を週5日完全米飯、地元の野菜を使い、魚中心の和食 に変え、いじめ・非行・不登校が多かった荒れた学校を、給食を変えるこ とで立て直したそうです。いじめ・非行・暴力が減り、更には学力が向上 した事実を話してくださいました。</p> <p>学校給食の重要性を実感するとともに、子ども達の将来のために、その あり方を真剣に考える必要があると考えます。</p>
<p>市長</p>	<p>学校給食は単に「学校で食べるお昼ご飯」と言うことだけでなく、健康 な体を作ること、行事食、郷土食を知り未来に伝えること、また、地産地 消の推進にも役立つものでありますから、学校給食法でも、その重要性が 謳われていますが、食にかかわる多くの方々に感謝の気持ちを持つことや、 食べる楽しみや喜びを感じ、みんなで楽しく食べることでコミュニケーシ ョンを深めて、社交性や協同の精神を養うなど、学校生活を豊かにし、生 きた教材としても重要な役割を果たすものと思っております。</p> <p>おいしい給食であることはもちろんですが、衛生管理基準に従い、 食品事故を起こさないための安全管理も重要であると考えています。</p> <p>最近では、子どもの貧困が叫ばれる中、夏休みなど長期間の休みが続く と、給食が食べられず、痩せてしまう子ども達がいるというようなニュー</p>

<p>子ども家庭 支援室長</p>	<p>スを耳にすると心が痛みますが、給食が子どもの成長や発育に欠かせない重要なものだと認識しているところです。</p> <p>本市の学校給食の献立につきましては、学校給食の意義を充分勘案する中で、栄養バランスや地産地消などを考慮し、保護者をはじめ、多くの関係者に参加いただき決定しています。また、給食調理業務の委託化による課題も保護者も交えた会議を定期的に行い検証を行っています。</p> <p>今後も市民の皆さまの様々な声を原点として、より良い給食となるよう努めていきたいと思っております。</p>
<p>参加者C</p>	<p>次に、参加者Cさんご意見をいただいでよろしいでしょうか。</p> <p>毎月のメンターカフェの運営では、市外からもわざわざ足を運んで相談に来られる親御さんも何人もいます。印象的なことは、とても硬い表情で悩みを話し始める親たちが、時間を過ごすうちに柔らかな表情になり、時に笑いがおきるような相談の場は専門機関との大きな違いです。</p> <p>子ども達のために一生懸命な親たちのサポート体制は少ないのが現状ではないかと感じております。親たちの気持ちを丁寧に汲み取りながら気軽に相談できる場は、課題が根深くなる前に、早期の支援にも繋がり、専門機関に繋ぐ前のクッション役にもなれる場です。</p> <p>今後の運営課題はメンターの養成や質の担保など多くありますが、地域サポートネットワークの一端となり得るよう、より良い支援の場になればと思い活動させていただいております。</p>
<p>市長</p>	<p>Cさんをはじめ、「おやうぼ」の皆様には、発達に不安があるけど相談先が分からない、障がいを受け入れられない、そんな思いを抱えた家族に寄り添ってほしいと、自分たちが気軽に相談できる窓口になり、専門機関とのつなぎ役になったり、あるいは経験者ならではの視点を伝えたりと、「メンターカフェ」を通しての子育て支援にご尽力をいただき感謝を申し上げます。</p> <p>この「メンターカフェ」は、県立図書館において月1回定例で開催されているということでもありますけれども、県内では、ペアレントメンターによる相談を実施している唯一の場であるということと、SNSや関係者からの情報提供などを通じて、徐々に周知が図られていることから、相談者の数も増加している状況であると同っております。</p> <p>今後において増加すると思われる相談者に対応するペアレントメンターの確保や、親御さんへの早期支援が速やかに行える場の確保が課題になってくると考えられます。</p>

<p>子ども家庭 支援室長</p>	<p>今後、ペアレントメンター養成につきましては、県に都道府県が行う地域生活支援事業として、ペアレントメンター養成の実施を働きかけてまいりたいと思います。</p>
<p>参加者D</p>	<p>次に、参加者Dさんご意見をいただいてよろしいでしょうか。</p> <p>子育てという枠組みの中で、とかく障がい児は行き場を失う時があります。同じ障がいを持った方が少ないとか、子育てサークルでは十分な対応ができなかったり、障がい者と障がい児の制度が異なったり、そんな中、障がいの有無に関わらず子どもをともに育てていくという視点を持ち、何か取り組みが出来ないだろうかと有志で考えを持ち帰り、メンターカフェの取り組みを始めました。</p> <p>子育ての視点を持った時に障がい児を取り巻く環境の中にこそ、様々な課題があることに気がきます。メンターカフェの一つの特徴は様々な障がいを持った子どもの親が集まっていることです。</p> <p>学校や地域、家庭の中で感じる課題は障がいの種別を越えて共有し、共に考えるべき課題だと思えます。</p> <p>甲府市の自立支援協議会の中でも、このメンターカフェの運営を共有していただいています。</p>
<p>市長</p>	<p>出生から就学、就職と、子どもの成長とライフステージに応じて違いますし、親御さんが抱く心配や不安あるいは喜びは一人一人異なるものです。その一つ一つ違う思いを、障がいの有無や違いに限らず共有できる場の必要性は感じております。もちろん、障がいの違いや重症度によって抱えている課題は異なりますし、その解決の方法も異なります。</p> <p>障がいを抱えた子どもさんを育てている親御さんの思いは、障がいの種別によって違うのではなく、そのような親御さんだからこそ課題を共有できるものであり、共通した視点を持って地域や学校を見た時、見えなかった課題が見えることもあると思います。</p> <p>今後におきましても、メンターカフェの活動の中で感じたことは、「甲府市地域自立支援協議会」の地域課題としてご提案いただき、関係者の中でも共有していきたいと思えます。</p>
<p>子ども家庭 支援室長</p>	<p>次に、参加者Eさんご意見をいただいてよろしいでしょうか。</p>
<p>参加者E</p>	<p>私にはダウン症の11歳の娘がいます。娘が生まれてから障がいを受容</p>

	<p>するまでが一番苦しかったかもしれません。それから成長するにつけ、幼稚園入園、小学校入学等の節目ばかりでなく、日々の生活の中に悩みや迷いもありました。そんな時に、ダウン症の親の会で話を聞いてもらったりアドバイスをもらい少しずつ立ち直っていきました。</p> <p>このような私の体験から、どんな事でも相談できる場所があるといいと思います。</p> <p>この子の時には、他の方にダウン症ではないか思われるのが嫌で乳児健診に行かなかったのですが、本当は一番支援を受けなければならない立場だと思いますので、健康なお子さんと分け隔てなく支援を受けられるようになればと思っています。</p> <p>今度福祉部が分かれるとのお話を伺いましたが、一つの場所でお話が聞けたりだとか、連携がとれたりだとか、そのような場があればありがたいと思います。</p> <p>先日、市立動物園に行ったのですが、市立動物園は前の日に申込書をダウンロードして、申し込んでおかなければならないのですが、県立の施設は療育手帳を提示すれば入れてくれます。そのようなことからでも一つずつ解消していくと、お子さんを育てやすい甲府市になるのではないかと考えております。</p>
市長	<p>行政の縦割りというか、横との連携の難しさ、スムーズにできないということにつきましては、私も思うところはございますが、子ども未来部を組織するにあたりましては、事務的な部分については行政や法律ごとに違いがあっても、窓口では相談ごとなどをワンストップで全て聞いて対応が図れるよう努力してまいりたいと考えております。市立動物園のお話もございましたけれども、ご意見としてしっかりと受け止めさせていただきたいと考えております。</p> <p>昨年の10月に相生福祉センター、保健センターが新たにできまして、きれいな医療相談ルームもございますけれども、そこがどのように機能しているかも、もう一度確認させていただき、機能が補完されていなければどのようにしていくかも検討していきたいと思っております。</p>
子ども家庭支援室長	<p>次に、参加者Fさんご意見をいただいてよろしいでしょうか。</p>
参加者F	<p>私は、甲斐市に住んでいますが、国立甲府病院に助産師として勤務しており、出産、子育て中のお母さん方の相談を聞き、支援を行っています。先ほど市長さんのお話にあったように、産後ケアセンターが開設されましたので、センターを通じて、甲府市と市内の病院の連携が進めばと思っています。</p>

	<p>います。</p> <p>子どもを妊娠出産し、子育てをする過程で悩みを抱え相談に来る方は、旦那さんの転勤で引っ越してきた方や核家族で頼れる人がいない方、また、子どもに問題や障がいがあるという方など様々であります。そのような方々に地域社会に活用できる資源があることを妊娠した段階で情報発信できたら、相談者にとって心強いのではないかと考えております。</p> <p>甲府市で発行している子育てガイドブックは、困ったときの連絡先など多くの情報が掲載されており、非常に役立つものだと思います。できましたら相談先として、家族会や親の会などの情報も掲載していただけたらありがたいです。</p> <p>私は専門職ですが、親ラボのみなさんと一緒に活動しております。組織に属している立場の私が、病院の外で活動している訳ですが、そこで得られるネットワークは、病院内での日々の相談業務だけでは得られないものがあります。また、親ラボは毎年、県内外から講師を招いて研修会を行っていますが、今後は、地域の皆さんや市の職員の皆さんにもネットワークを広げる意味でも親ラボを活用してほしいと思います。</p>
市長	<p>Fさんのご意見のとおり、地域資源を市民の方に情報提供していくのが行政の責務ですので、積極的に取り組んでいきたいと思っております。また、本市では一昨年から「甲府市障害者基幹相談センターりんく」を開設し、障がい者グループや当事者、家族の人たちと連携を図っておりますが、今後も情報提供に努めていきたいと思っております。</p>
子ども家庭支援室長	<p>ここで休憩をとりたいと思っております。</p>
子ども家庭支援室長	<p>それでは、意見交換会を再開いたします。参加者Gさんご意見をいただいてよろしいでしょうか。</p>
参加者G	<p>私が親ラボの活動を通して感じていることは次のことです。</p> <p>子どもの成長に悩みや課題を抱えるお母さんたちは、自分の育て方がいけなかったのかと自分自身を責めたり、悩みごとを一人で抱えて、社会から隔離されている状況を作り出す人もいます。また、検診に行った時に、専門家の言葉に傷ついたり、専門家の説明を理解できずに孤立していくお母さんも多くいます。</p> <p>甲府市では子ども最優先のまちづくりを進めているとのことですが、障がいや病気、心配ごとなどがある子どもを持つ方々への支援については、子育て支援窓口などでワンストップで相談を聞いて、内容を把握し、担当</p>

	<p>課に繋げる体制が必要だと思えます。</p> <p>先ほど、市長さんから甲府市障害者基幹相談支援センター「りんく」の話がありましたが、私たちのメンターカフェに「りんく」の専門職の方にも来ていただいたりして連携をとっています。しかし、「りんく」は甲府市障害者センターの中にあるため、まだ子どもの障がいを受容できていないお母さんは、「りんく」に相談に行くことに抵抗がありますので、私たち親ラボのような地域資源を活用していただき、課題を抱えて悩んでいるお母さんを孤立させないような支援をしていただきたいと思います。</p> <p>また、昨年相生に保健センターが完成し、すべての子どもの検診を行っていると聞いていますが、保健センターでメンターカフェが開催できたらいいなと思えます。</p> <p>私には、中学校3年生の二男がいますが、筋ジストロフィーになり、小学校4年生のときに車椅子生活になりましたが、市立の普通学級に通っています。市立の小中学校はバリアフリーやエレベーターなどの設備がなく大変でしたが、先生や友達の理解を得ることができ、学校生活を楽しく過ごしています。また、地域の子どもクラブにも参加させていただき楽しく過ごすことができました。やはり、地域に出て行くことは大切なことですが、外に出て行くことが出来ない人たちにどのように接し、支援していくのかを検討してほしいと思えます。</p> <p>子育てをされている毎日の生活の中で、お子さんに対しての小さな気づきから深刻な困りごとまで、親御さんが一人で抱え込んでいることが多く、専門機関に相談に行くまでの葛藤は計り知れないものと思えます。</p> <p>また、専門機関に相談し、専門職員が親御さんにわかるように説明しても、障がいを受容することで精一杯な親御さんにとっては、説明を理解するのに時間がかかるのではないかと思います。</p> <p>Gさんのご意見やお子さんの話は、子育てに悩み、親ラボに相談してみようと思っている方に勇気を与えてくれるものだと思います。</p> <p>子育て支援について情報提供することは、とても大切なことですが、相談に来た方の気持ちを理解し、真剣に向き合い話を聞くといった対応も大切だと思います。</p> <p>また、先ほどご要望のあった保健センターなどでの親ラボの開催についても、検討を進めていきたいと思えます。</p>
市長	<p>次に、参加者Hさんご意見をいただいてよろしいでしょうか。</p>
子ども家庭支援室長	<p>私がお話ししたいことは、実際に相談を受けた事例ですが、小学校入学を</p>
参加者H	<p>私がお話ししたいことは、実際に相談を受けた事例ですが、小学校入学を</p>

<p>市長</p> <p>子ども家庭 支援室長</p>	<p>控え、就学児健診で異常が見つかった子どもさんの親が、その時初めて事実気づき、教育センターに検査に行きました。センターでは担当の方から特別支援学校や特別支援学級などの説明を受けましたが、専門用語もあり、全く意味がわからず悩んでいたところ、たまたま治療に行った歯医者さんで私たち親ラボのパンフレットを見つけて、相談に来られました。現在は、明るく過ごされていますが、はじめに行った教育センターでもう少し丁寧な対応ができなかったのかと思います。</p> <p>2つ目の事例は、小学生の子どもさんが、シャーペンや鉛筆の芯が折れることが気になって、書き写すのが遅くなり、それに伴い先生の板書が遅くなり、授業が遅れてしまう。この場合は、芯が折れることが気になるので、ボールペンに変えることで解決するのですが、担任の先生が許可してくれないといった相談がありました。これは先生によって対応が違うのかもしれませんが、柔軟な考えを持った先生が増えてくれればよいと思います。</p> <p>3つ目の事例は、特別支援学校のクラスの定員は8名で特別支援学級のクラスの定員は6名です。支援学校の先生は、専門の教育を受けた方ですが、支援学級の場合は、一般の教員が担任になります。小学校の場合は担任制ですが、中学校は教科担任制になるので、支援学級の担任をしながら、一般の学級の教科担任もします。私の子どもが通っている中学校は、知的障がいの子どものが5人いますが、それぞれ交流に行くクラスが違うため、担任の先生は全ての子どものスケジュールを管理しながら教科担任もしなければならぬため、とても大変です。来年度は2人入学するため、7人のクラスになります。教育支援員の方もいますが、支援員は勉強を教えることは出来ません。そこに加配ということになると、先生が不在のときに勉強を教えることが出来ますので、予算や人員の確保をお願いします。</p> <p>ご意見をいただいた先生の確保につきましては、私も教育現場を目の当たりにし、必要性を感じておりますので出来る限りの対応をしていきたいと思っております。また、1点目のお話にあった、学校の先生が子どものことを真剣に考える親御さんに事務的な対応をしてしまったといったことを耳にしますが、先生方のハードワークが影響していることも考えられますので、今日ご参加いただいているAさんのようなOB、OGの方々のお力をお借りするなど、教育委員会と対応を協議していきたいと思っております。</p> <p>また、現在、伊勢小学校、善誘館小学校、新田小学校で指導教員を増やしておりますが、来年度は新紺屋小学校でも行っていきます。</p> <p>次に、参加者Iさんご意見をいただいてよろしいでしょうか。</p>
---------------------------------	---

<p>参加者 I</p>	<p>昭和 29 年 4 月に創立された甲府市子どもクラブ指導者連絡協議会は、平成 26 年に 60 周年を迎えました。次代を担う全ての子ども達が、希望を持ち、人間味豊かでたくましく、のびのびと健全に育っていくことを願いながら、60 周年を迎えることが出来たのは、歴代指導者・育成者のご尽力と地域の方々のご協力のおかげであります。</p> <p>甲府市子どもクラブ指導者連絡協議会の大きな活動の一つとして、毎年開催される中央球技大会があります。厳しい猛暑の中、中学生リーダーたちが下級生たちに技術の向上やルール、マナーなどを一生懸命に教える姿、下級生たちが次のリーダーを目指して真剣に取り組む姿など、異年齢同士が協力しながら優勝を目指してがんばっています。また、自然と親しみながら体験研修ができるキャンプ研修においては、自然の中でレクリエーションの楽しさを体験し、仲間と力を合わせて活動することで友情を深め、いつまでも心に残る研修を実施してきました。</p> <p>しかし、近年は少子化が進み、地域で子ども達の元気で明るい声を聞く機会が少なくなり、親御さんたちの価値観も多様化する中で、地域で開催される行事に積極的に参加する子どもたちが減少しており、子ども達を取り巻く環境は変化しております。</p> <p>そこで、地域における中心的な指導者組織である本協議会としては、地域、学校、家庭の理解を得て、子ども達が地域活動に参加する環境を作り、魅力ある行事を実施し、積極的に子ども達を企画・立案から参加させることにより、自分たちが主役であるとの意識を持たせ、私たち指導者・育成者は側面から支援していくことが重要であると考えております。</p> <p>今後も、未来を担う子ども達の健やかな成長を願いつつ、これからも活動を継続していきたいと思っております。</p>
<p>市長</p>	<p>甲府市子どもクラブ指導者連絡協議会の皆さまには、日ごろから、次代を担う子どもたちの健全育成活動について、ご理解とご協力をいただいていることに、感謝申し上げます。</p> <p>私も子どもの頃、夏休みに朝早くからソフトボールの練習をし、上級生に教えてもらったり、自分が上級生になった時は、下級生に教えたりしたことで、その後の人間形成に役立ちました。</p> <p>I さんのお話のとおり、現在子ども達を取り巻く環境は変化し、地域で開催される行事に参加する子どもたちは減少していますが、外で元気に活動する子どもたちの姿を見ると、心が熱くなりますし、それを支える方々のネットワークも地域の宝ですので、行政としましても、今まで甲府市子どもクラブ指導者連絡協議会が取り組まれてきた事業を引き続き支援していきたいと思っております。協議会の皆さまにおきましても、今後も子ども達が健やかにたくましく、心豊かに成長できますよう、ご協力をお願いいたし</p>

<p>子ども家庭 支援室長</p>	<p>ます。</p> <p>次に、参加者Jさんご意見をいただいでよろしいでしょうか。</p>
<p>参加者J</p>	<p>青少年育成甲府市民会議は、青少年健全育成のために設立され46年が経過しました。活動につきましては、1つ目として、福祉部児童育成課内の事務局と市内28地区の育成会長で運営委員会を組織し、運営委員会では年4回の運営のための会議、事務局では少年の主張大会、市内回覧のための「こうふの青少年」冊子の作成等の活動を行っています。2つ目として、事務局と各地区育成会代表役員で組織している総務部会・育成部会・地域環境部会の3部会があり、総務部会は部会運営と講演会の実施、地区活動実践報告会等。育成部会は部会運営と青少年ジュニアリーダーの育成研修会、信玄公祭りへの出陣等。地域環境部会では部会運営と各地区補導活動、家庭の日等の作品募集と文化祭への展示活動をしています。3つ目として、市内28地区育成会による活動があり、各地区育成会では育成会長を中心にそれぞれ特色ある活動を実施しております。</p> <p>青少年の健全育成活動は、社会全体で取り組まなければなりません、社会全体としての取り組みは弱体化しています。最近、問題が起こるたびに責任は家庭、学校教育、地域社会、行政、政治ではないかなど、責任の所在を振り分けているに過ぎません。</p> <p>青少年の健全育成は「大人の責任」であり、今後の取り組みは、各地区育成会の役員が高齢化しているため役員構成を見直すこと。甲府市青少年健全育成のために28地区育成会活動などの事業内容を検討すること。今後の育成会活動に対するアンケート結果も踏まえ、検討委員会を立ち上げることについて協議し、取り組んでいきたいと思ひます。</p>
<p>市長</p>	<p>青少年育成甲府市民会議の皆さまには、青少年ジュニアリーダーの育成など日ごろから、青少年健全育成活動にご理解とご協力をいただいでいることに、感謝申し上げます。</p> <p>先ほど、J会長から組織の課題についてお話しがありましたが、本市としましても、引き続き、市民会議の皆さまと一緒に考え、連携しながら課題の克服に取り組んでいきたいと思ひますので、今後もご協力をいただきますようお願いいたします。</p>
<p>子ども家庭 支援室長</p>	<p>次に、参加者Kさんご意見をいただいでよろしいでしょうか。</p>

